

長野県環境審議会第 7 期野尻湖水質保全計画策定専門委員会(第 2 回)における指摘事項及び対応案

No.	項目	指摘事項	当日の回答 ⇒計画素案の修正箇所
1	資料 1-3	(小澤委員) 常時監視の資料を確認したところ、2011 年度頃から湖心底層の採水深度が変わっていた。2011 年度までは採水深度が底上 5 m くらいまでであったが、それ以降は底上 1 m 程度となっている。深いところで採水すると COD が高くなる可能性があるのではないかと。そこを加味した検討してほしい。	(いであ (株)) 2011 (平成 23) 年度～2015 (平成 27) 年度の 5 年間は、下層の採水深度が概ね湖底上 1 m であり、その前後に比べて湖底に近い深度となっています。この採水深度の変化は COD に影響していると考えられますが、2016 (平成 28) 年度以降も COD が高止まりしていること、下層と連動して上層も COD が高止まりしている傾向にあることから、その影響は限定的と考えられます。 【参考資料 1 参照】
2	資料 1-1	(小澤委員) 水質浄化池に関しては新しい計画では記載が変わるという認識で良いか。今後どういった対応をとるのか。貴重な資源だと認識しているので、今後の活用を検討してもらいたい。	(信濃町) 水質浄化池については、伝九郎用水の水利権の制約により十分な水量の確保が難しい現状ですが、そのような状況を踏まえながら、維持管理及び周辺整備に引き続き取り組むとともに、環境教育の場としての活用も検討します。 ⇒ 6 ページの水質浄化池の記載に追記
3	資料 1-5 参考資料 2	(近藤委員) 鳥居川の取水再開を計画に反映したということだが、COD の負荷も多くなったのか。将来的に鳥居川からの取水が継続するという認識でよいか。	(いであ (株)) 鳥居川からの取水が今後も継続する前提で参考資料 2 (前回資料 3) を修正 (負荷量を追加) しました。また、将来予測においても鳥居川からの取水を考慮しています。 ⇒ 13 ページの汚濁負荷量を修正
4	参考資料 3	(宮原委員長) 降水量の図について、年間降水量が大きすぎると思うので、確認すること。 気象庁のデータをみると近年 10 年で冬の降雪量が減っている傾向が見える。雪の降り方が変わると東北電力の取水方法等も変わるので、COD の増減につ	(いであ (株)) 降水量の図は年間降水量がすべて 2000mm 多くなっていたため修正しました。 【参考資料 2 参照】 また、1990 年以降の降雪量の変動を整

No.	項目	指摘事項	当日の回答 ⇒計画素案の修正箇所
		いても、もう少し長いスパンで低い時期・高い時期の比較をしてほしい。	理し、CODと比較しました。 【参考資料3参照】
5	資料 1-4 参考資料1	(宮原委員長) CODの「現状水準の維持」の現状には二つの数字があるが、どちらを指すのか。	(水大気環境課) 直近の令和5年度の値、すなわち2.5mg/Lを想定している。 ⇒5ページの「計画期間内に達成すべき目標」を修正しました。
6		(近藤委員) 全リンと同じように数字を記載し、括弧書きで「現状水準の維持」とした方が明確ではないか。	(水大気環境課) 具体的な数値を示した上で、前期計画の計画期間(令和元年度～令和5年度の5年間)に目標値を全て達成していた場合は、「現状水質の維持」、同期間に目標値を達成した年度と未達成の年度がある場合は、「現状水質の維持・向上」と括弧書きで付記しました。 ⇒5ページの「計画期間内に達成すべき目標」を修正しました。
7		(宮原委員長) 透明度に関しても同様に形式の統一がとれていないので、検討して頂きたい。	(水大気環境課) No.6と同様に整理しました。 ⇒5ページの「計画期間内に達成すべき目標」を修正しました。
8		(小澤委員) 下水道接続率83%は前期より低い目標だが、直接流域内での対策は計画に残した方がよい。農業集落排水施設への接続は記載できないとしても、個別に合併浄化槽を入れるなど、数値目標でなくとも文言として何か残せないか。 (宮原委員長) 数字だけでなく、83%とした背景について教えてほしい。	(信濃町) 直接流域における下水道等接続率の目標値は、公共用水域の水質保全、公衆衛生向上の観点から第6期計画期間中の増加率を加味して設定した信濃町全体の生活排水整備率と同率としています。 なお、直接流域内には単独浄化槽設置世帯がわずかに残っているため、生活雑排水対策として、重点的に下水道への接続又は合併浄化槽への転換を求めています。 ⇒6ページの記載に反映(直接流域内の単独浄化槽に対し、重点的に下水道接続を求めていくことを追記。これにより、生活雑排水の流出・地下浸

No.	項目	指摘事項	当日の回答 ⇒計画素案の修正箇所
			透は規制されることから、「④各家庭における生活雑排水対策の推進」を削除しました。
9		(近藤委員) 植物プランクトンの調査方法の開発とはどのような内容か。	(諏訪湖環境研究センター) 多波長励起蛍光光度計による連続観測を計画中です。 ⇒質問への回答であり、計画素案への反映は特になし
10	資料 1-4	(近藤委員) 14 ページの意見交換会は常に行っていくのか。住民参加による環境保全活動を推進するとあるが、活動の具体的な方策はどのように考えているのか。	(水大気環境課) 新たに盛り込んだ意見交換会は、常設ではありませんが、計画策定の年以外でも地元の方と野尻湖の保全活動等について意見交換することを想定しています。 今後、メンバー等の具体的な内容を信濃町と相談して決めていきます。 ⇒10 ページに意見交換会の開催目的などを追記しました。
11		(小澤委員) 農地対策にある、「農業環境負荷低減事業活動実施計画の認定」とは何か。 また、濁水対策はされているのか。	(長野農業農村支援センター) 県と市町村が合同で作った計画で、土づくり、化学肥料の低減、化学農薬の低減が事業の3本柱です。今までのエコファーマー制度に替わるものですが、中身は同様です。 減肥として、窒素、りん酸は極力減らす方向ですが、濁水対策については、具体的な記載には至っていません。 ⇒質問への回答であり、計画素案への反映は特になし。
12		(宮原委員長) 水生生物に関する調査研究に関して、生物多様性という記載があるので、魚類、貝類、エビなども含めて調査することがわかるように記載してほしい。	(水大気環境課) (3) 緑地の保全その他湖辺の自然環境の保護の②の記載を変更しました。 ⇒8 ページに反映
13	資料 1-4	(宮原委員長) 12 ページの②のような項目に、透明度だけでなく COD (場合によっては窒	(水大気環境課) 「調査研究の推進と活用」の中で、COD等の水質変化の要因について解析するこ

No.	項目	指摘事項	当日の回答 ⇒計画素案の修正箇所
		<p>素・リン)も含め、下げる場合はどうしたらよいか今後研究する、実態調査をするというような記載が必要かと思う。</p> <p>関川から入ってくるCOD等があれば常にデータを把握し、野尻湖にどのようなことが起こっているのかを把握しておいてほしい。</p>	<p>とを記載しました。</p> <p>また、引き続き、関川等の流入河川の水質調査結果の把握を行い、野尻湖の水質予想などに活用していきます。</p> <p>⇒9ページに反映(COD等の水質変化の要因解析について追記)しました。</p>
14	その他	<p>(近藤委員)</p> <p>難分解性有機物に関して、国立環境研究所の最近の調査では、通説であったフミン酸とは異なる調査結果が出ているので、文献調査だけでもすればいいのか。野尻湖でもCODを下げる方策にもつながると思う。</p>	<p>(水大気環境課)</p> <p>CODが下げ止まっている要因については引き続き解析を進め、効果的な水質保全対策の検討につなげていきたい。</p> <p>⇒9ページに反映(COD等の水質変化の要因解析について追記)しました。</p>
15	その他	<p>(近藤委員)</p> <p>今後地域の皆様のご意見をお聞きし、反映していくということだが、住民と一緒に野尻湖を改善していく意識をいかに醸成するかということが重要である。CODの上昇を自然のものとするのではなく、野尻湖とともに生活していくため、一人一人がきれいな湖を保つため行動していく、という方向性を盛り込んでいければよい。</p>	<p>(水大気環境課)</p> <p>意見交換会の開催などにより、地元関係者の意見を聞きながら、本計画の進捗状況や課題を共有した上で、行政機関だけでなく地元主導による取組も強化していきます。</p> <p>⇒2ページの最後の段落に、行政機関に限らず、地域住民や関係団体がそれぞれ主体的に水質保全策を進めていくことを記載しました。なお、意見交換会については、10ページに記載があります。</p>